

「大阪芸術大学音楽学資料のデータベース化と、 その公開利用に関する研究」

研究年度・期間：平成8年度～平成9年度

平成8年度

研究代表者：谷村 晃
(音楽教育学科 教授)

研究ディレクター：谷村 晃
(音楽教育学科 教授)

共同研究者：月溪 恒子 馬淵卯三郎
(音楽学科 教授) (音楽学科 教授)
樋口 光治 前川 陽郁
(音楽教育学科 助教授) (音楽教育学科 助教授)
木原 俊哉 志村 哲
(音楽教育学科 講師) (音楽学科 講師)
芹澤 秀近 高畠 克己
(芸術計画学科 講師) (音楽教育学科 講師)
中川 暎量
(舞台芸術学科 講師)

研究助言者：加藤 由紀
(音楽学科 非常勤講師)

研究補助者：西村 佳代 西村美加子
(大学院 副手) (大学院 副手)
畑野 有里 松村 郁子
(大学院 副手) (大学院 副手)

平成9年度

研究代表者：谷村 晃
(音楽教育学科 教授)

研究ディレクター：谷村 晃
(音楽教育学科 教授)

共同研究者：月溪 恒子 馬淵卯三郎
(音楽学科 教授) (音楽学科 教授)
樋口 光治 前川 陽郁
(音楽教育学科 助教授) (音楽教育学科 助教授)
木原 俊哉 志村 哲
(音楽教育学科 講師) (音楽学科 講師)
芹澤 秀近 高畠 克己
(芸術計画学科 講師) (音楽教育学科 講師)
中川 暎量
(舞台芸術学科 講師)

研究助言者：加藤 由紀
(音楽学科 非常勤講師)

研究補助者：西村 佳代 西村美加子
(大学院 副手) (大学院 副手)
畑野 有里 浜淵 真弓
(大学院 副手) (大学院 副手)
松村 郁子 宮脇 篤志
(大学院 副手) (大学院 副手)
登り山美穂子 野村さや香
(大学院 副手) (大学院 副手)

研究経過の概要

平成5年度から3年継続で研究してきた「大阪芸術大学音楽学資料のデータベース化に関する研究」は、平成8年3月末日をもって一応完了した。その成果の一部は、平成8年12月13日開催の第16回教員研究会(大阪芸術大学芸術研究所主催)において公表された。既に当初より予想されたことではあるが、大阪芸術大学が保有する音楽学資料(SPレコード、ろう管、蓄音機その他)があまりにも大量であるため、与えられた時間と予算の中では到底所期の目的を達成することができなかった。

平成 8～9 年度は、過去 3 年間の研究を継承発展させ、本学の音楽学資料の公開利用の道を探る予定であったが、諸搬の事情から十分な予算とそれに必要な人員を確保できなかったため、結果的には研究はほとんど進展を見なかった。

研究成果について

当初の目的である「本学所蔵の音楽学資料の全容の把握」、「音楽学資料の分野別のデータベース化作業」、「完成したデータベースに基づく内容別目録（英文）の作成」については、ひとつのモデルとして、蓄音機に関するデータベースを基に本学所蔵の蓄音機についての CD - ROM を作成したのが唯一の具体的な研究成果である。

なお、共同研究のメンバー相互の意見交換を通して、今後の研究体制についていろいろな問題が指摘された。

研究の反省

この大量情報を処理するには、芸術研究所の共同研究の範囲を越えていることが改めて認識された。特に予算面でも、人員確保の面でも問題がありすぎる。大学がこの音楽学資料のデータベース化と目録作成及び情報発信に意義を認めるならば、学校をあげての取組みと、10 年～20 年の計画を立てて、地道に取り組まねばならないことが、確認された。

さらにこれだけのコレクションを真に活かすためには、コレクションの補充、修理、保管体制を確立し、できるだけ早期に次の研究体制にはいる必要がある。特に蓄音機等の機器類は今直ぐにでも補修にかからないと、恐らくもはや修復不可能になり、学校の貴重な財産が消滅しかねない。